

# 経営比較分析表

秋田県 北秋田市

事業名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	91.15	27.93	2,515

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
34,129	1,152.76	29.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,472	10.08	939.68

## グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成27年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率(%) [113.56]  
昨年同様に100%以上となっており、類似団体、全国平均と比較しても高く、また経常収益では給水収益が大部分を占めており、健全性を示すものとなっている。
- ②累積欠損金比率(%) [0.87]  
欠損金が発生しておらず健全であるといえる。
- ③流動比率(%) [262.74]  
高い水準で推移しており、短期債務に対する現金支払能力は高い状況である。
- ④企業債残高対給水収益比率(%) [276.38]  
新規の借入をしておらず企業債にたよらない経営ができる。
- ⑤料金回収率 [104.99]  
100%を超えており、類似団体、全国平均と比較しても高く、給水収益により給水費用を賄えており、適切な料金収入を得られている。
- ⑥給水原価 [163.72]  
低い数値となっており、低コストにより供給できている状況を示すものとなっている。
- ⑦施設利用率(%) [59.76]  
類似団体、全国平均より高く、人口減少が進んでいる中ににおいても適度な稼働が出来ている。
- ⑧有収率 [89.95]  
昨年度より微増しているものの、今後の老朽化対策や維持管理により一層の向上を図る必要がある。

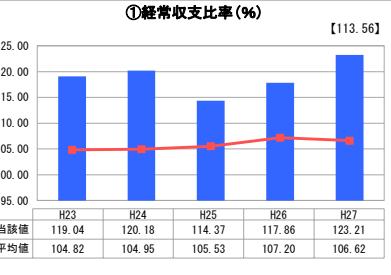
### 2. 老朽化の状況について

- 開設から40年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいく。
- 平成10年度までに、石綿セメント管の全量更新を実施し、浄水場本館についても平成32年度の稼動開始に向けて新築移転の予定である。
- 管路の更新については、早急にアセットマネジメントを策定し、漏水の確率が高いと思われる管種及び管路から、順に更新していく予定である。

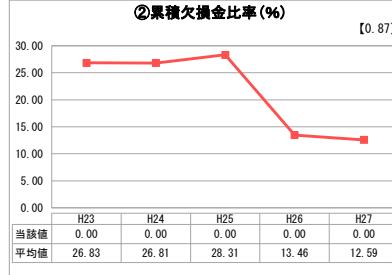
## 全体総括

- ①から⑥までの全項目について、経営の健全性を示す数値となっており、「良質な水源の確保により、最小経費で安定供給する」といった企業理念に適った経営となっている。
- しかしながら、⑧有収率が類似団体に比して高いとは言えず、老朽化対策や維持管理により、より一層の効率化を図っていく必要がある。
- また、経営状況が良好で、剩余金及び内部留保資金も毎年増加しているが、2-③に表れているとおり、裏を返せば「設備更新への取組みが不十分」とも言えることから、老朽化施設の更新費用の平準化及び効率化を図るべく、アセットマネジメントの策定を早急に進めた。

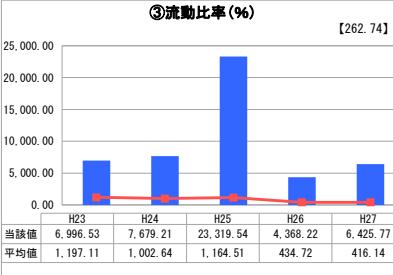
①経常収支比率(%)



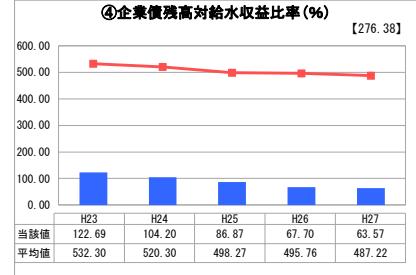
②累積欠損金比率(%)



③流動比率(%)

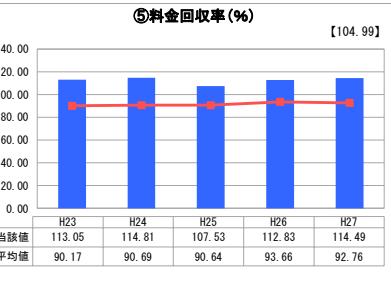


④企業債残高対給水収益比率(%)

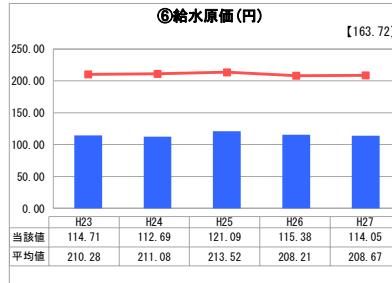


「経常損益」

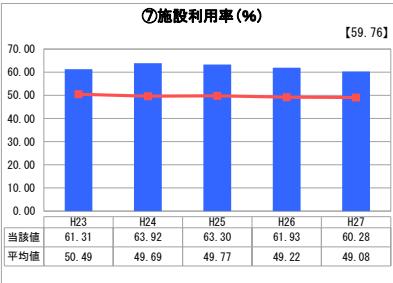
⑤料金回収率(%)



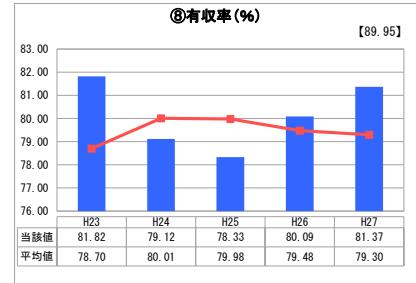
「累積欠損」



「支払能力」



「債務残高」



「料金水準の適切性」

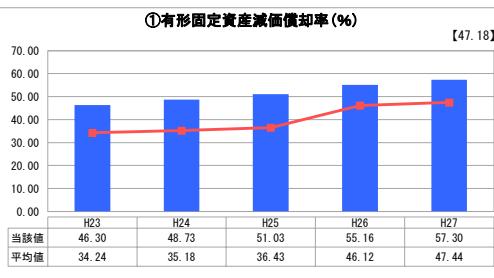
「費用の効率性」

「施設の効率性」

「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)



②管路経年化率(%)



③管路更新率(%)



「施設全体の減価償却の状況」

「管路の経年化の状況」

「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。